

駒ヶ根市文化財

名称	高見城跡
種別	史跡
所在地	中沢中割
説明	<p>見城は中沢のほぼ中央、現在の中割にある。鎌倉期の中沢郷 8 箇村のうち、現中沢区の上割・中割・下割の 3 区を併せて高見村といい、城名はこの村名を冠したものである。</p> <p>城の規模は市では赤須城につぎ、竜東地区では最大級である。つるね状台地を東西に走る空堀で区画し、「西城」「外城」と呼ばれる単一の廓跡を造っている。廓の規模は共に 50m 四方でほぼ原型をとどめている。西城の北と外城の南の堀は現在埋め立てられている。この廓の間の堀は市道のために削られ底はやはり埋め立てられている。この廓の北東にある香花社は周濠がめぐらされた古式城廓と考えられ、その南側には白山城址がある。また、外城の南には、堀を挟んで的場遺跡があり、市道の改修工事に伴う発掘調査で、溝を巡らした 80m 四方の中世の方形廓が確認され、内部より掘立柱式建物の跡が 30 基ほど確認されている。また点在するこれらの郭に囲まれた内部にある坪の内遺跡からは、12 世紀後半から 13 世紀前半の掘立柱式建物址が確認されている。</p> <p>さらに西城の南西に続く地籍には、上町・中町・下町の地割が残り、枡形もほぼその形をとどめている。</p> <p>高見城そのものは現在遺る廓であるが、周辺に広がる関連する施設や地名を含めて、この城の性格を考えることが重要である。天竜川の河岸段丘上に位置するものと、高見城のように内奥部に位置するものとは、城館としての持つ性格・機能に自ずと違いがあるのでないかと考えられる。すなわち、単なる城と居館を備えたものとは異なり、地域における行政庁的性格を持つものと考えたい。このことは残された郭や周辺の地名が如実に物語っており、竜東地区の中世—中沢郷を考える上で重要なものである。</p> <p>鎌倉時代この地は、神氏出自の中沢氏が地頭として知行していたことが明らかになっており、中沢氏の居城がこの高見城であったことはほぼ間違いないものと考えられている。</p>



遠景



堀跡